

○西ノ島赤尾展望所・摩天崖(10時40分～12時ころ)【写真-12, 13, 14】

西ノ島町中心地別府港から西海岸へバスで約20分、国賀海岸着。大陸からの北西の季節風による日本海の荒波、暴風雪などの厳しい自然に晒され、度重なる噴火により噴出した幾重もの玄武岩層により、高さ100～250mの断崖が連なる。海岸沿いに遊歩道があり、ゆっくり歩けば海食崖、海食洞、波食棚などを近くに見ることができるが今回は時間がない。断崖の上部は平らな丘陵地になっており、馬、牛の放牧が行なわれている。遠く水平線の向こうは朝鮮半島。その距離約300km、さすがに見えない。



○小型遊覧船からの知夫里島「赤壁」の雄大な景観(13時～15時ころ)【写真 15, 16】

昼食後、波止港から小型観光船で知夫里島西海岸にある「赤壁」を目指す。当日は北東の風が少し強く吹いており、船の揺れが心配されたが、島が北東の風を塞いでくれた。この断崖を形成しているのは、「スコリア」と呼ばれる岩石で、火口から熔岩として噴出した岩石が空気に触れることにより鉄分が酸化し赤く変化したものである。波浪等によりスコリア丘が浸食され、火口跡を見ることができる。

